



# 学校だより 6月号

～豊かで調和のとれた子の育成～

【た】くましく生きる人 【な】かよく生きる人

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>



みのたなくん

## 例年の取組を生かした新様式で

校長 酒井 浩明

第一校舎前の梅の実が熟し、水田には水がたたえられ、少し早い梅雨の足音が気にかかる頃、校庭では、子どもたちの元気な声と、演技練習の音楽が響いています。

令和3年度も2か月が過ぎ、例年の取組を生かした、新様式での学習も進めています。

田奈っ子菜園では、今年度から児童数の減少に合わせ、畑の半分に緑肥や線虫抑制効果があるマリーゴールド（品種アフリカントール）を蒔き、輪作することを試行しています。

また、菜園の一部に保育園児がサツマイモを植え、収穫時にはともに活動する予定です。さらに、田植え等の見学や体験を通して、田奈小学校とその児童を身近に感じる幼保小連携する活動を続けます。

1年生は、勤労生産活動と生活科で、5月にサツマイモの苗を植え、秋に収穫し、芋づるを生かした学習につなげていきます。

2年生「ぐんぐんそだておいしい野菜」では、田奈っ子菜園に自分が選んだ野菜を植えました。また、より野菜の成長に気付くように、校舎前の自分の植木鉢にも苗を植え、野菜の世話に目が向くようにしています。

3年生「わたしたちのまち・市」では、今年「まち探検」に出かけることができました。東方面の探検では、土志田 武さんの梨園の見学も行い、6月上旬にも見学に行き、果樹農家の方の努力や思いにさらに触れていきます。

5年生「未来を支える食糧生産」と関連させた総合的な学習として、今年も品種「満月モチ」の種もみまきを、土志田康浩さんに教わりながら行いました。

私も種もみまきに初めて同行したのですが、同じ深さに蒔くために、工夫した手づくりの木の板を利用することを学んだり、種もみを均一

に蒔き、表面を崩さずに水やりをすることを指導する難しさを感じたりすることができました。

どの取組も本校の特色を生かした「生活科・総合的な学習」であり、「食育」に繋がる大切な学習です。

さて、現在、学校生活にも＜階段脇の梅の実＞制限がかかっている「まん延防止等重点措置」が、5月31日まで延長されていますが、今年度は、熱中症対策や感染症拡大防止を踏まえ、運動会を午前中に開催します。

その内容は、徒競走と演技を中心として、リレーは3～6年で行い、応援団も大声を出すのではない応援方法を工夫しています。

また、トランペット鼓笛隊は、感染防止の活動制限により、例年4月から朝29回午後15回程度の練習が、朝17回と午後の3回ととも少ない練習時間となった中、井上太市さんのひとかたならぬご尽力により、ドリル演奏ではありませんが、演奏発表にこぎつけることができました。

このような運動会の子どもたちの走る姿や演技する姿を、地域の方を含む多くの皆様にご覧いただきたいのですが、感染防止の観点から、保護者参観は各家庭1名とするとともに、来賓は、いつも本校の教育活動にご助言をいただいている『まちとともに歩む学校づくり懇話会』の委員の皆様に限定することにしました。

まだまだ、教職員一同知恵を絞り、新様式を考える日々が続きますが、保護者と地域の皆様のご協力とご支援を糧に、「温故創新」の思いで努力していきたいと思っています。

